

メインハーネスの配線(つづき)

ステップ3 黄コード(IG線)を接続します。

重要 保安基準では、「エンジン駆動中に警報機が動作(警戒ON)してはならない」と定められています。本品は、エンジン始動/停止状態を黄コード(IG線)の状態を判断していますので、必ず配線して下さい。

注意 黄コード(IG線)の配線を誤った場合、下記動作不良となりますので、正しく配線して下さい。
 ・誤って常時+12V線に接続した場合・・・リモコンの警戒ON操作時に、本体受付エラー(Eと3が交互に表示)となります。
 ・未接続あるいは誤って車両のアース線に接続した場合・・・使用開始から約14日間でスリープモードに入ります。

付属のヒューズユニット(黄コード)またはエレクトロタップを使用し、黄コードを接続します。

●ヒューズユニット(黄コード)による接続方法

注意 ヒューズユニットは、必ず車両側の青色(同じ定格電流)ヒューズと差し替えて下さい。色の違うヒューズと差し替えた場合、ヒューズが切れたり、車両側に悪影響を与える恐れがあります。

- ①車両側のヒューズボックスの中で、エンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示す青色ヒューズをテスターで探します。
- ②付属のヒューズユニット(黄コード)の中から①で探したヒューズと同じ大きさのものを選び、差し替えます。
- ③ヒューズユニットに黄コードを接続します。



●エレクトロタップによる接続方法(車室内に該当する青色ヒューズがない場合)

注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

- ①車両側の配線でエンジンキーが「OFF」「ACC」のときにOV、「ON」のときに+12Vを示すコードをテスターで探します。
- ②黄コードのギボシ端子部を切断します。
- ③黄コードを①で探したコードにエレクトロタップで接続します。

メモ 黄コード接続用のエレクトロタップは、同梱されていません。エレクトロタップを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用して下さい。

ステップ4 茶コード(ドアスイッチ入力線)を接続します。

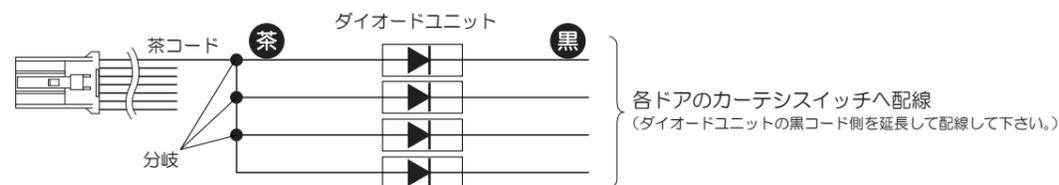
注意 エレクトロタップで配線する際は、エレクトロタップのカバーを確実にロックして下さい。エレクトロタップの金属部分が車体の金属部分に接触するとショートし、火災・故障の原因となります。テーピングすることをお奨めします。

重要 保安基準では、「ルームランプおよびカーゴランプスイッチがOFF状態であっても、全てのドア、テールゲートまたはハッチ(ボンネットおよびトランクは除く)に対してドア開を検出すること」と定められています。必ず全てのドア開が検出できるように配線して下さい。
 ・茶コードの配線が困難なお車は、本品を取り付けることは出来ません。

注意 全てのドアを開めたときにOV、いずれかのドアを開けたときに+12Vとなる線へ接続する場合には、別途リレーが必要となります。

- ①ルームランプおよびカーゴランプスイッチをOFFにして下さい。(ドアを開けたときに、室内灯が点かない状態にする。)
- ②ドアの開閉に合わせて下記動作を示すコードをテスターで探します。
 ・ドアを開けたとき・・・OV付近まで電圧降下する、あるいはボディーアースと導通する。
 ・ドアを開けたとき・・・+12V付近まで電圧上昇する、あるいはボディーアースと非導通となる。
- ③茶コードを②で探したコードに付属のエレクトロタップ(赤色)で接続します。

メモ 車によって茶コードを1ヶ所に配線しただけでは、全てのドアの開閉を検出出来ない場合があります。そのような場合は、付属のダイオードユニットを使用して茶コードを分岐し、各ドアのカーテシスイッチへ配線して下さい。分岐する際は、エレクトロタップと延長コードを別途用意して下さい。エレクトロタップは、自動車用低電圧線(AVS線)0.5mm²サイズ適応品を使用して下さい。



振動センサーの取り付け

注意 振動センサーは、しっかりと固定して下さい。固定が不十分だと感度が鈍くなります。

ステップ1 振動センサーを取り付けます。

重要 容易に目につきにくい場所へ取り付けして下さい。

注意 取り付け姿勢が感度に大きく影響します。取り付け後は、必ず動作を確認し、感度を確かめて下さい。

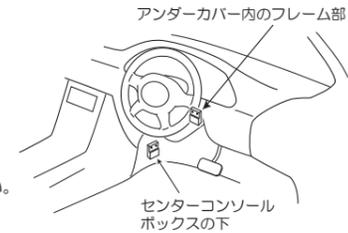
取り付け位置について

- 振動センサーは、車内のなるべく固い所へ設置すると振動を敏感に感知します。車体のフレームなどの金属部へ付属の両面テープでしっかりと貼り付けて下さい。また車体の各部へ加えられる衝撃をなるべく均一に得られるよう、センターコンソール付近等の車体中心部に取り付けて下さい。
- センサーは防水構造になっていないため、エアコンの吹き出し口付近に取り付けないで下さい。高温になったり結露し、故障の原因となります。

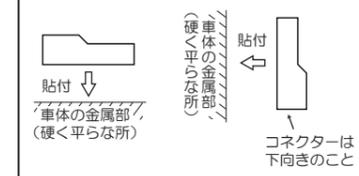
振動センサーの取り付け姿勢について

- 振動センサーの取り付け姿勢は、右図のいずれかの向きで取り付けして下さい。このとき感度調整が可能な向きとなっているか確認して下さい。

ステップ2 振動センサー入力コードを接続します。



[取り付け姿勢]



サイレンの取り付け

メモ 車載ホーンにて警報音および警戒ON/OFFの確認音を出力させたい場合は、別途57~58ページの「車載ホーンへの配線方法(選択)」に従って、配線して下さい。

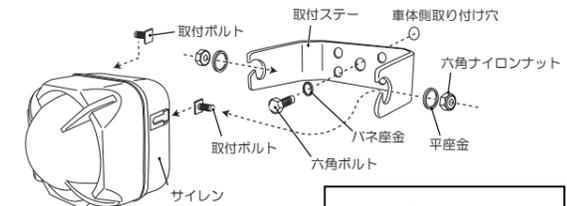
注意 ・下記の場所へは、絶対にサイレンを取り付けしないで下さい。故障の原因となります。
 ・エンジン本体・ラジエター・エキゾーストマニホールド(排気系)付近。
 ・駆動部付近(ファンなど)。
 ・直接水がかからない場所。(グリルまわりなどは避ける。)
 ・サイレンは、車の振動などで脱落しないように下図の取付姿勢を守り、確実に固定して下さい。またナットが振動で緩む場合もありますので、定期的な締め付け確認を行って下さい。この確認を怠った場合、サイレンが脱落し、事故・故障の原因となります。

ステップ1 サイレンを固定します。

サイレンをエンジンルーム内へ取り付けます。

- ①車両のネジ穴等を利用して取付ステーを車体に固定します。
- ②サイレンに取付ボルトを差し込み、取付ステーに締め付けます。

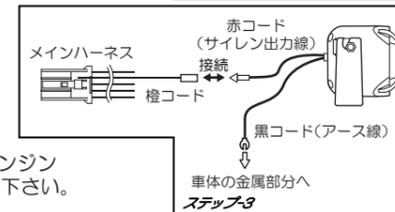
サイレンの取付姿勢



ステップ2 サイレンの黒コード(アース線)を接続します。

注意 塗装されている金属部分や車の振動等で緩んでしまう場所に接続しないで下さい。動作不良の原因となります。

サイレンから出ている黒コードを車体の金属部分へ接続します。



ステップ3 サイレンの赤コード(サイレン出力線)を接続します。

サイレンから出ている赤コードを車両のグローメット等を利用してエンジンルームから車室内へ引き込み、メインハーネスの橙コードへ接続して下さい。

重要 赤コードは容易に目につきにくいように配線して下さい。